

福岡県下のタケノコ栽培実態 (II)

福岡県林業試験場 野中 重之

1. はじめに

福岡県では、農山村振興の一つとして特用林産物を導入し、種々の行政指導を行っている。1976年から実施している竹林品評会もその一環である。本報告は、当品評会に出品されたモウソウチクタケノコ専用竹林の栽培実態を分析するもので、前報¹⁾では栽培環境、親竹・施肥・その他の管理、収穫等の概要について取りまとめた。今回は栽培環境について報告する。

2. 調査方法

前報で報告したので省略する。

3. 結果

(1) 標高

調査竹林の水平的な分布は、海岸線数kmから内陸部までみれる。垂直的には、標高20~500mまで分布し平均181mである。表-1は標高別の分布数とその面積を示したものである。竹林の分布では標高50~149mに51.1%と最も多いが、300m以上でも16.5%みられる。1箇所当りの面積を標高別にみると、149m以下が41.2a対し300m以上では56.2aとなっており、標高の高いところほど栽培規模が大きい傾向がみられる。このことを県行政区(6農林事務所)別の平均標高でみると、本県タケノコ生産の主産地である筑後地区(県全生産量の約62%)が211m、次いで多い飯塚地区(同16%)が218mとなっている。これに対して、比較的生産ウエイトの低い上記以外の4地区(同22%)の平均標高は137mと主産地よりかなり低い。これらのことから本県のタケノコ栽培は、標高が高く、しかも高い所ほど栽培面積も広い傾向がみられる。

(2) 傾斜

傾斜角度の範囲は6~42°平均16.5°で、傾斜角度別の分布と面積を示したのが表-2である。分布数では5~19°で15.2%と最も少なく、最も多いのは20~29°で46.0%、30°以上の急傾斜地でも38.8%みられる。

面積でも5~19°に14.4%と最も少なく、20~29°では41.9%、30°以上に43.7%と最も多く分布している。しかも、1箇所当たりの平均面積は5~29°の傾斜面が43.7a、30°以上では53.7aとなっており、本県のタケノコ栽培は急傾斜面地が多く、しかも急斜面地ほど栽培面積も広い。

(3) 傾斜向

表-3は傾斜向を東向斜面(N46~E, S46~E)、南向斜面(S~45E, S~45W)、西向斜面(S46~W, N46~W)、北向斜面(N~45W, N~45E)に区分しその竹林分布と面積を示したものである。竹林の分布では、東向及び南向斜面が32.4%、31.9%となっているのに対し、西向及び北向斜面では21.3%、14.4%でやや少ない。しかし、1箇所当たりの面積では、北向斜面が51.5aで他の傾斜面よりやや広い傾向がみられる。

(4) 土色

土壌は赤色系褐色森林土が非常に多く、褐色森林土は少ない。表-4は標準土色帖により土色を区分し、その分布数や面積を示したものである。全体に赤色系が多いが、その中でも5YR7/8~7.5YR6/8が分布数で73.6%、面積でも76.1%を占めている。また、1箇所当たりの面積でも、赤色の強い土壌の方がやや広い傾向がみられる。

なお、一部の地域(北九州市を中心とした地域)では、粘土性の強い淡黄色ないし赤色土から「シロコタケノコ」(皮の色は灰白色ないし淡黄色、中は白色でエグミの少ないタケノコ)が出荷されている。

(5) 整備

タケノコ栽培では肥料・タケノコ・竹材等の重量物の搬出入を伴うことから、作業の軽減や能率を高めるために種々の方法で整備がすすめられている。表-5は整備の状況等を示したものである。何らかの施設や整備がなされている竹林が63%に達し、最も多いのは肥料・タケノコ・竹材等の搬出入を目的とした作業道(2~2.5m幅)で36.2%の竹林にみられる。次いで多いのが肥料・タケノコを林内作業基地まで搬出入するモノ

レールが15%，クローラ（林内用の小型運搬車）が7.5%，軽架線が3.9%となっている。これら整備の種類と傾斜角度との関係を見ると、モノレールが最も急傾斜地に設置され平均31°，次いで軽架線の29.2°，作業道の26.2°，クローラ使用の25.9°となっており、整備されていない竹林の平均傾斜24.6°よりも急傾斜となっている。また、これら整備されている竹林の平均面積が52~61.8aであるのに対し、整備されていない竹林は31.6aと狭小になっている。

(6) 面積

表-6は1人当たりの竹林所有規模と1箇所当たりの面積を示したものである。所有規模では50a以下が34%，50~99aが35.7%，100a以上が30.3%となっており、全体の平均は101a最大では700aである。1箇所当たりの面積では25~49aが最も多く42.5%を占め、全体の平均は47aとなっている。このように1箇所当たりの平均面積では47aであるが、所有面積の平均が101aとなっているのは、数箇所竹林を所有（79.3%の人）していることを示している。

表-1 標高別の竹林割合と面積

標高階	箇所割合	面積割合	平均面積
0~49m	3.2%	3.2%	46.8 a
50~99	27.4	22.9	39.4
100~149	23.7	21.2	42.5
150~199	9.6	10.1	50.0
200~249	10.6	12.3	54.9
250~299	9.0	10.8	56.5
300~349	8.5	9.5	53.0
350~399	4.3	5.9	66.1
400以上	3.7	4.1	52.1

表-3 傾斜向別の竹林割合と面積

傾斜向	箇所割合	面積割合	平均面積
東向斜面	32.4%	31.4%	48.0 a
南向斜面	31.9	32.8	46.7
西向斜面	21.3	20.2	45.2
北向斜面	14.4	15.6	51.5

表-5 林内整備の状況

種類	箇所割合	平均面積	傾斜角度
作業道	36.2%	57.2 a	26.2°
モノレール	15.0	61.8	31.0
クローラ	7.5	52.0	25.9
軽架線	3.9	52.2	29.2
なし	37.4	31.6	24.6

4. むすび

今回取りまとめた406箇所だけでは、本県のタケノコ栽培地の環境実態とは言いがたいが、県下各地域から出品された竹林と言うことでみる限り、標高・傾斜など大変厳しい立地環境の下で行われている。

それでも、この厳しい栽培環境下で、作業の軽減や能率を高めるために、立地に応じた各種の整備がなされていることがわかった。

本報告では、栽培環境についてのみ取りまとめたが、次回以降においては立地と収量、親竹や施肥等の管理と収量との関係についても明らかにしたい。

引用文献

- (1) 野中重之：日林九支研論，42，303~304，1989

表-2 傾斜角度別の竹林割合と面積

傾斜角度	箇所割合	面積割合	平均面積
5~9°	1.3%	1.2%	42.6 a
10~14	5.3	5.3	47.3
15~19	8.6	7.9	44.1
20~24	22.2	19.3	41.4
25~29	23.8	22.6	45.1
30~34	21.7	26.8	58.9
35~39	14.7	14.8	47.7
40以上	2.4	2.1	42.3

表-4 土色別の竹林割合と面積

土色	箇所割合	面積割合	平均面積
7.5 YR 3/3	2.9%	2.9%	50.2 a
7.5 YR 4/3	5.9	4.2	36.2
7.5 YR 5/6	17.6	16.8	48.5
7.5 YR 6/8	34.3	32.3	47.6
5 YR 7/8	39.3	43.8	56.2

表-6 竹林規模別の割合

面積階	所有規模	1箇所の規模
25 a 以下	6.1%	26.9%
25~49	27.9	42.5
50~74	13.0	15.7
75~99	22.7	11.4
100~124	5.6	0.8
125~149	9.0	1.9
150~174	0.8	0
175~199	9.0	0.5
200以上	5.9	0.3